

<審査委員会特別賞（広報応援事業） 4団体>

■ 特定非営利活動法人 キッズ&子育てママ応援隊 MerryTime（大阪）

「市内の公的支援の届かない地域での『“多様な人たち”が集えるおやこひろば』の展開」

団体概要	<p>子育てをキャリアと捉え、子どもの成長支援・子育て女性の支援に関する活動を行う。1994年から開始、箕面を拠点に活動している。主な活動である、「わんぱくらんど」では、就園前の幼児の遊び場を提供し、人間関係力を育成して集団生活に慣れるお手伝いをしている。他に「子育てキャリア塾」の運営、活動を支えるお助けスタッフの育成、保育付きリフレッシュ講座などの開催を行っている。</p>
事業概要	<p>箕面市は、住宅地の開発が進み若い人口が増え、留学生や外国人も多いが、公的支援は及ばず自主的な子育てサークルも少ない。本事業は、これまで居場所がなかった東部地区で、外国人を含む多様な親子が集う場所、相談しやすい環境、預かり保育などができる場所づくりを目的に、「おやこのひろば」を作るものである。子どもを持つ親のネットワーク化を進めることで、子育て支援の芽を地域で育て、国際理解にもつながる、多様な人たちと共存していくきっかけづくりを行う。</p>

■ 特定非営利活動法人 子育てを楽しむ会（京都）

「情報誌作成サポート事業」

団体概要	<p>子育てサークルのリーダーが集まり「宇治で子育てをして良かったと思えるように、自分たちでできることから始めよう」と1994年に設立。2008年にはメンバーは10倍となり、様々な子育て支援を展開している。</p> <p>主な活動は、宇治子育て情報の提供、子育て期の親子や妊婦の集う場づくり、特技を生かし、社会とつながるチャレンジ事業、子育てがしやすい地域づくりなどである。</p>
事業概要	<p>「多胎児」や「アレルギーのある子ども」を持つ親の当事者団体が宇治市にもあり、しんどい時期を乗り切るための情報をたくさん持っている。しかし、その情報が伝承されていない現状がある。</p> <p>本事業は、当団体がコーディネートし、当事者団体の協力を得ながら当事者ならではの有用な情報を盛り込んだミニ情報誌を作成し、宇治市内の公共施設や保健所などで、必要な人に無料配布することを内容とする。併せて、HPでも情報コーナーを設置して、同時進行でアップし、次に活かせる情報とすることをめざす。</p>

■ 特定非営利活動法人 児童虐待防止協会（大阪）

「子ども専用フリーダイヤル『キッズライン』事業」

<p>団体概要</p>	<p>児童虐待を防止するため、医療・保健・福祉・法曹・教育・報道などの多職種の関係者により設立された。虐待に悩む親、虐待されている子ども、虐待を目撃している人などをサポートし、児童虐待の早期発見・予防につなげるとともに、広く市民への啓発活動、調査・研究活動を行っている。</p> <p>主な活動は、電話相談、研究会・研修会の開催、虐待傾向を持つ母親と子どものグループ・ケア活動、調査・広報活動、児童虐待のシンボルマークであるオレンジリボン事業などである。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、子ども専用フリーダイヤル「キッズライン」設置と子ども向け啓発リーフレットの作成・配布を行うことを軸に、①虐待を受けている子どもの支援、②学校でのグループワークプログラム、③教育委員会、学校などへの協力と啓発活動を実施するものである。相談するという発想を持っていない子ども達への啓発活動と共に、子ども自らのSOSをキャッチし支援につなげることを目的としている。</p>

■ みんなでつくる学校とれぶりんか（大阪）

「世代と課題をつないだ市民力で、体験型次世代育成・リーダー育成をめざすキッズ・フェスタの成功」

<p>団体概要</p>	<p>4つの世代（①おじいさん・おばあさん、②おじさん・おばさん、③若者、④子ども）で、4つのテーマ（①福祉、②人権、③平和、④環境）に取り組む非営利のフリースクールである。不登校・引きこもり・リストカット・オーバードラッグ・うつなど、生きづらい状況にある子どもや若者たちが主体的に参加できる居場所づくりとともに、夢や憧れにつながる取り組みを自由に創造し、メッセージの発信を活動としている。障がい児・者が、当たり前と共に生きてゆくためのさまざまな課題を共に考え実践していく取り組みを行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業では、地域での6年間の子どもの育成の取り組みで培った、世代も課題もつないだ市民力で、「キッズ・フェスタ」を開催するものである。具体的には、①子どもをめぐる問題点と状況、各団体からの展望と事例交流のパネル展、②シニアと子どもをつなぐクラフトづくりなどの体験型コーナー、③演劇・車いすレクダンスの発表などである。問題解決に向けたメッセージを発信し、体験型次世代育成・リーダー育成に向けた「キッズ・フェスタ」の成功をめざす。</p>

（50音順）